

最優秀賞

おかあさんのいないなつやすみ

茨城県 日立市立河原子小学校一年 大平 和来

おかあさんのいないなつやすみがはじまった。おとうさんとふたりでさびしかった。

おかあさんはおじいちゃんのかいごで、ぼくがなつやすみのあいだ、おじいちゃんのうちにとまることになっていた。ぼくも、そのことをなつやすみのまえにきいて、しってはいたけれど、ほんとうにいなくなってみるととてもさびしかった。

おじいちゃんは、きよねんのふゆ、「のうこうそく」というびょうきになってしまった。それまでは、とつてもげんきで、ぼくはまいにちあそんでもらった。おじいちゃんは、あるくことができなくなって、トイレもじぶんでいけなくなってしまった。そして、げんきもなくなってしまった。ひとりぐらしをしていたおじいちゃんは、びょういんをたいいんしてからしせつにはいった。そんなおじいちゃんが、ぼくのなつやすみといっしょにじぶんのうちにかえってくることになった。だから、ぼくのおかあさんは、かいごのために、おじいちゃんのうちにとまることになった。

まいにち、よるごはんはぼくとおとうさんもおじいちゃんのうちでいっしょにたべ、おとうさんといっしょにじぶんのうちへかえる。

おかあさんといっしょにいるあいだは、おかあさんのおてつだいをいっしょにけんめいがんばった。ごはんのじゅんび、せんとくものはこび、おじいちゃんのおはなし。かえるときは、おかあさんとてをふってげんかんをしめる。でも、いつも、もういちどあけておかあさんにぎゅっとす

る。おかあさんは、そのときかならず、「かずきだいすきだよ。かずきはおかあさんのたからものだよ。」

といってくれて、ぎゅっとしてくれる。にこっとしてくれたおかあさんに、ぼくも、にこっとする。ほんとうは、さびしくてつらいけど、いっしょけんめいがまんをして、また、てをさいごにふっておとうさんとくるまにのる。

「おかあさんががんばっているんだから、ぼくもがんばらなくちゃ。」
と、おとうさんとやくそくもした。

ことしのなつやすみは、どこにもいけなかったけど、おじいちゃんちのわでたくさんあそんだ。おとうさんとサッカーをしたり、やきゅうもやった。よるは、おかあさんはいなかったけれど、おとうさんとたくさんおしゃべりもした。

きつと、ぼくのともだちとは、ちよつとちがうなつやすみをすごしたのかもしれないけれど、かぞくでいっしょにいられるだけで、ぼくはうれしくて、たのしいことだとおもった。

おかあさんがうちにかえってきたら、いっばいはなしをして、マッサージをしてあげて、よるはいっしょにぎゅっとしながらねたいなあとおもっている。